

あ

ぎ

な

青森県立つくしが丘病院 第139号

『大震災に接して』



診療部長

林 本 章

東日本大震災で被災された方々、またご親戚やご友人が被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

直接被災した人たちの、それぞれの事情による痛みは計り知れませんが、同時に原発事故が起こったことで、地球温暖化、財政の悪化に加え、日本はエネルギー問題という難問を抱えることになりました。私たちは、社会全体の将来を考えなければなりません。

今の日本は第一次・第二次産業が廃れ、仕事と言えば複雑で専門的な仕事ばかりです。それに自分を合わせていけなければ、すぐにはじかれてしまいます。極端な競争社会になったことで、利己主義が当たり前になりました。その陰ではうつ病や引きこもりが増え、社会は包容力をなくしていると感じます。

仏教に「慈悲喜捨」という教えがあります。慈は人をいつくしむ。悲は人を助ける。喜は人の喜びを喜ぶ。捨は差別のない心。こういう心が持てたら、幸せだろうなと思います。人のために何かをする毎日、その積み重ねが生きる意味になり、結局人の苦悩を解決するのもかもしれません。

私は今年度、診療部長という役目をいただきました。ご承知の通り、管理職には全然向かない人間です。しかし一つ思うのは、自然分・診療部・病院全体が、慈悲喜捨のような精神を持って仕事に向かいたいということだと思います。当院職員の皆さんにはとても高い能力があるのです、その力を喜んで患者さんに向けられるよう、応援するのが自分の役目と思っています。

『新しい春』



急性期・救急診療科副部長

鈴木 克治

住み慣れた北海道を離れ、故郷である青森に帰る決心をし、恐る恐る堀内院長にお電話したのはほんの二、三か月前のことです。院長には、まずはいっしょに県立病院で頑張ってみては、とおっしゃっていただき、お言葉に甘えることにしました。

昨年末、青森市で講演させていただく機会がありました。その出会いがなければ、自分が青森に帰るにあたって堀内院長に電話をするという選択肢はおそらく思いつかなかったことでしょう。そのような出会いのおかげで、青森に帰りたいという気持ちも少しずつ固まってきたように思います。堀内先生に、自分が就職できそうな病院が青森にあるかどうかお聞きする目的でお電話したのですが、そのまま当院に就職する方向に導いていただけました。それは本当に幸運としか言いようがありません。そう思うのは、公立の病院でこそ、地域への貢献が最大限にできると信じているからです。

高校生までを過ごした二十四年ぶりの故郷の春の匂いは、懐かしくもあり、新鮮でもあります。今、震災からの復興の最中、多くの被災者がテレビで「やっばり、生まれ育った土地に帰りたい」と悲痛な面持ちで語るのを拝見するにつけ、生まれ育った土地に戻る事ができたのは幸せなことだと思いますし、地元への貢献を実現できるように一生懸命頑張りたいと思います。

『転任の「あこさつ」』



医師 敦賀 光嗣

今春よりつくしが丘病院で勤務することになりました。これまでは一年間中央病院の総合診療部で総合内科医として仕事をしていました。精神科医としての仕事は一年ぶりです。

九年ほど前になると思いですが、研修医二年目のときに新築する前のつくしが丘病院で研修をさせていただいたことがありました。その節はお世話になりました。なんとなく存じ上げていたスタッフや患者さんをみかけると、九年前にタイムスリップをしたような感じがします。

研修医を終了して、六ヶ所村尾駁診療所や自治医科大学精神科、むつ総合病院メンタルヘルス科に勤務しました。総合内科医と精神科医の二足のわらじでいましたが、そろそろ精神科医ひとすじで仕事をしたいと考えるています。中央病院の総合診療部では、中央病院の外来・病棟だけでなく、青森県内の地域医療の支援のため、三戸、田子、外ヶ浜、鱒ヶ沢や小泊の医療機関に応援に行くこともありました。改めて青森県の広さを実感しました。

去年一度、内科医としてつくしが丘病院にお邪魔しましたが、新築になった建物は以前と趣が違い、たいへん驚きました。これはこれで便利なのだと思います。まだまだ勝手がわからず、まだ行きたい所へ行けないことがあります。たまに院内でまごまごしています。

久しぶりのつくしが丘病院で戸惑いも多いですが、精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いします。

『二度目のつくしが丘病院』



外来看護班長 一瀬 眞理子

皆さんこんにちは。四月に中央病院から異動となり、つくしが丘病院は四年ぶり二度目の勤務となります。この四年の間につくしが丘病院は大きく変わっていました。プライベートが確保された病室、明るく清潔感のある病棟、そして外来は吹き抜けの天井から陽がさし、ガラス張りの待合室からは広く整備された外来者用の駐車場が見えます。明るくゆったりとした空間と清潔感ある設備、そんな新しい環境と私の気分を高揚させています。また「久しぶり！」と気軽に声をかけてくれる患者さんやスタッフに癒され、緊張していた私の表情も自然と和んできたと思います。

外来には一日平均百名の患者さんが訪れます。精神科医療は入院中心から外来中心へと移り変わり、外来機能の充実と強化が求められています。患者さんが安心して地域生活を継続できるように外来での支援をしながら、他職種との連携と協働をすすめていく必要があると感じています。さらに最近は見護の質が問われるようになってきました。病棟と外来の連携をさらに深め、スムーズに入退院ができ、退院後の生活をより長く継続できるように、多くの患者さんと関わっていきたくと思っています。

どうか皆様の協力とご指導をよろしくお願いいたします。

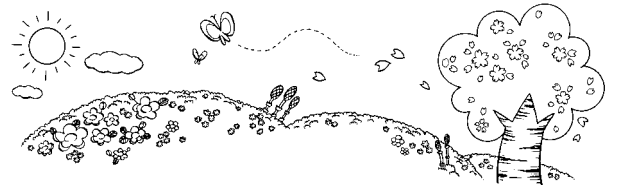
ユースフェイス紹介

B病棟

佐藤 葉月

A病棟

三上 亜理沙



看護部

精神科での仕事は初めてなので、緊張していますが、よろしく申し上げます。

中央病院からきました。少しでも早く慣れるように頑張りますので、よろしく申し上げます。

B病棟

吉川直希

目つきは悪くても、優しい心で患者さんと接したいです。看護師一年目の新米ですが、精一杯頑張るのでよろしく願います。

B病棟

清野鉄也

以前東京でコンピュータの仕事をしていました。看護師としての経験は浅いですが宜しく願います。

B病棟

石川卓

中央病院四階西病棟からきました。精神科は初めてなのでみなさんよろしく願います。

D病棟

工藤士加子

精神科での勤務は初めてです。早く慣れるよう頑張ります。よろしく願います。

C病棟

小笠原琢磨

新採用でつくしが丘病院配属となりました。わからないことだらけですが精一杯努力します。よろしく願います。

C病棟

木村猛

四月から中央病院から異動になった木村です。看護師は四年目ですが、精神科の経験はないので頑張りたいと思います。

E病棟主任

高坂小百合

つくしが丘病院勤務は初めてです。よろしく願います。

E病棟主幹

山田明子

二十数年前勤務していた頃とは、あらゆる点で大きく変化していることに驚いています。御指導よろしく願います。



つくし つめこみニュース



外来担当医表 <small>(平成二十三年四月一日現在)</small>	曜日	月	火	水	木	金
	新 患	柿 崎	吉 田	坂 本	林 本	増 谷
		敦 賀	鈴 木	鈴 木	敦 賀	柿 崎
	再 来	堀 内	武 田	岩 佐	柿 崎	鈴 木
		坂 本	林 本	敦 賀	増 谷	吉 田
電話対応 (午前)	坂 本	林 本	敦 賀	柿 崎	吉 田	

病棟構成	病 棟		班 長
	A病棟	女性 閉鎖病棟	堀 江 妃佐子
	B病棟	急性期・児童青年期 男女混合閉鎖病棟	佐 藤 公 子
	C病棟	男性 閉鎖病棟	櫻 井 良 子
	D病棟	男女混合 開放病棟	古 川 純 子
E病棟	男女混合 閉鎖病棟	川 添 郁 夫	

***** 家族教室 年間スケジュール *****

平成二十三年 家族教室	回	開 催 日	テ ー マ
	1	5月27日 (金)	精神疾患の概要
	2	7月22日 (金)	再発防止とご家族の対応
	3	9月30日 (金)	統合失調症の薬 — 作用と副作用
	4	11月25日 (金)	精神障害者が利用できる福祉制度について
	5	1月27日 (金)	精神疾患についての長期的かわり
6	3月 2日 (金)	未 定	